

2023 年度川崎市青少年科学館の天文分野における連携事業

久保慎太郎*・弘田澄人*・内藤武*・三浦飛未来*・田中里佳*・村上ひろ子*

Collaborative Projects in the Field of Astronomy at the Kawasaki Municipal Science Museum
for Fiscal Year 2023Shintaro Kubo*, Sumito Hirota*, Takeshi Naito*, Hibiki Miura*, Satoka Tanaka* and Hiroko
Murakami*

はじめに

改正博物館法が 2023 年 4 月に施行され、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り、地域の活力向上に取り組むことが努力義務となった。

川崎市青少年科学館（以下「科学館」という）は、1971 年にプラネタリウム館として開館し 1982 年に登録博物館となった。2023 年 3 月に策定された第 2 期運営基本計画では、基本理念「市民と歩む宙と緑の科学館」を実現するための 4 つの基本方針のうち 1 つに「つなげる博物館 市民・地域・教育機関等と連携・協働し、魅力あるまちづくりに貢献する」とある（川崎市青少年科学館（編）, 2023）。

ここでは、これらの趣旨に則り 2023 年度に科学館で実施した天文分野の連携事業の概要を報告する。

出張企画展 in 東海道かわさき宿交流館

2023 年は、1923 年に光学式プラネタリウムがドイツ博物館で世界初のプラネタリウムツアイス 1 型が試験投影されてから 100 年となり、世界的に「プラネタリウム 100 周年」として様々な取組みがなされた。また、同年は 1623 年に川崎宿が開設されてから 400 年の節目の年で、川崎区役所では「東海道川崎宿起立 400 年」にむけて様々な取組みを行ってきた。この 2 つの節目を記念して、川崎区まちづくり推進部地域振興課と連携し、同区内に位置する「東海道かわさき宿交流館」（以下「交流館」という）3 階企画展示スペースにおいて、科学館の出張企画展「出張!かわさき宙と緑の科学館!!誕生 100 年 プラネタリウムの舞台裏」を実施した。

展示内容は、主に 2023 年夏に科学館内で開催した企画展「誕生 100 年プラネタリウムの舞台裏」をベースに構成され、制作にあたる負担を最小限のものとした。パネル展

示として、プラネタリウムの歴史、科学館のプラネタリウム投影機 MEGASTAR-III FUSION と旧投影機 GMII-16-T の仕組み、プラネタリウム番組制作の舞台裏、科学館ゆかりの故河原郁夫氏、元館長の若宮嵩令氏に関連する史料、実物展示として回転式星座絵投影機、科学館開館当時のプラネタリウムリーフレット等を展示した（図 1）。期間は、2024 年 2 月 3 日から 3 月 10 日まで行った。科学館が他施設で 1 か月にわたって企画展示を開催するのは初である。

開催初日は川崎市長も展示を観覧した。

また、関連企画として、2024 年 2 月 23 日に「出張!プラネタリウム投影会」を交流館で開催。MEGASTAR CLASS を使用し、当日の星空と、川崎宿が栄えた時代の天文の話題（江戸の天文学）等について 3 回投影し 50 人が観覧した。

川崎市北部に位置する科学館の企画展を、南部で実施することで、南部の市民にも当館の存在を周知するよい契機となり、当館へ興味を抱くことで、新たな来館者へとつなげることが期待できる。



図 1 出張企画展の展示風景

市制 100 周年 PR 動画素材の活用

川崎市は、2024 年に市制 100 周年を迎え

*川崎市青少年科学館（かわさき宙と緑の科学館）Kawasaki Municipal Science Museum

た。科学館では、川崎市総務企画局シティプロモーション推進室と連携し、多摩区が作成した市制 100 周年 PR 動画をプラネタリウムの、観客がほぼ着席している状態である、プラネタリウム投影 5 分前に、映画の予告編のような形で放映することで、多くの人に直接視聴してもらい市制 100 周年を PR した (図 2)。動画では、科学館のある多摩区の歴史を振り返り、かつての向ヶ丘遊園の様子や、区の名産品である多摩川梨などが紹介された。観覧者からは、「昔ここに遊園地があったんだよ」「登戸の渡しだ、懐かしい」等の声があった。



図 2 プラネタリウム内の動画上映の様子

震災特別番組「星よりも、遠くへ」

仙台市天文台制作のプラネタリウム番組「星よりも、遠くへ」を 2023 年 9 月 2 日に科学館で初めて投影した。この番組は、東日本大震災をテーマに 2018 年に制作されたもので、震災の夜、大停電の中で被災者が見上げた星空、被災者たちとの繋がりを描いたドキュメンタリー作品である。(仙台市天文台,2018)

2023 年は関東大震災から 100 年の節目でもあり、科学館では、川崎市危機管理本部と連携し、川崎市長と東京大学教授の防災特別対談動画(ダイジェスト版)を上映し、今後の防災啓発について記載したタブロイド紙(号外「備える。かわさき」)を配架した。また、同番組は 3.11 に合わせて 2024 年 3 月にも投影した。2024 年度も同様に 3 月の投影を予定している。

高校生プラネタリウム発表会

科学館では、開館以来「観るプラネタリウムから使うプラネタリウムへ」を合言葉に、

番組制作教室、プラネタリウムワークショップ等、市民自身がプラネタリウム投影を考案し解説する事業を行ってきた。今回、新たな来館者層である高校生の学習意欲に対応することを目的として川崎市多摩区の日本女子大附属高等学校天文クラブと連携し、プラネタリウム発表会を初めて開催した。

開催にあたり、準備は年度当初の 4 月から始まった。生徒が科学館に来館したり、科学館職員が高校へ出向くなどして指導し、プラネタリウムでは何が表現できるのか、当日の必要な役割は何か、それに向けてどのような準備が必要か等を生徒自らが考えて投影内容を組み立てた。

発表会は 2023 年 9 月 17 日 18 日の 2 日間実施。投影は各日 17 時から 45 分間実施した。初日は招待客向けに、2 日目は一般の方も参加できる形で実施した。高校生たちが作成したシナリオに基づき、プラネタリウムを自ら操作して解説した (図 3)。夏合宿で撮影した星空や、普段のクラブの活動風景を交えながら、惑星や、星座などを紹介した。この発表会は、翌 2024 年度も実施に至った。



図 3 高校生による投影の様子

特別投影「ウクライナの星空の下で」

2024 年 2 月 4 日、ウクライナのハルキウプラネタリウム解説員オレナ・ゼムリヤチェンコ氏による特別投影を実施した。オレナ氏は、2022 年にウクライナから日本に避難後、日本でプラネタリウムにかかわる仕事を希望し、各地のプラネタリウムで投影を行っている。今回、科学館職員との交流がきっかけとなり特別投影が実現した。

科学館では、実施に当たり川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室と連携し、日本赤十字社のウクライナ人道危機救援金の募金箱を設置することとなった(図 4)。また、市民文化局多文化共生推進課を通じて、川

崎市内に在住のウクライナから避難された方へ向け今回の投影の広報を実施し、市内の避難民を招待した。

投影では、オレナ氏のウクライナ語の解説と科学館職員の日本語翻訳によって、ウクライナの文化や星空が解説された。また、1階展示室には、ウクライナの風景写真やお守り人形「モタンカ」などが特別に展示された。今回の投影を通じ、観覧者にはプラネタリウムは星空、宇宙を通じて、世界中とつながることができる場所であることを実感してもらおうことで、天文への興味関心を高めることができた。

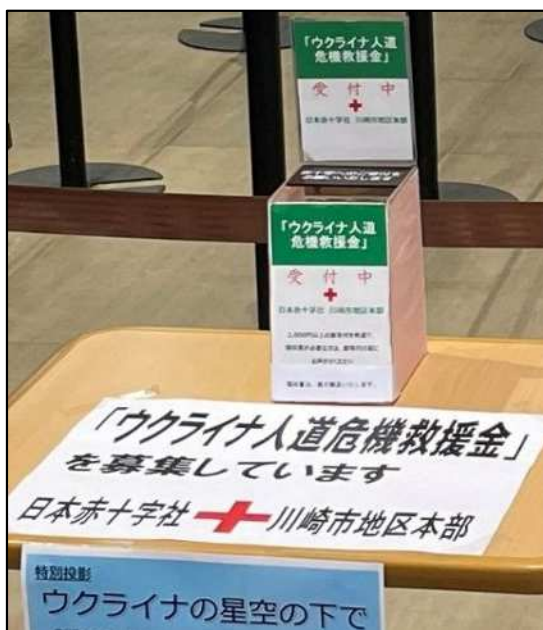


図4 館内に設置された募金箱



図5 ウクライナの風景などの特別展示

まとめ

科学館では、2023年度に多種多様な連携

事業を実施した。本稿で紹介した取組は、すべて新規の取組であり、運営基本計画や博物館法改正の趣旨を体現したもので、従来の来館者層に加え、観覧者向けアンケート結果からも初めて来館した声もあり、新たな層の来館に繋がったと考えられる。

しかし、これらはいずれも特に目新しいものや、特殊な事業ではない。これまで館内で完結していたような取組に少しの工夫を加え外部と連携して実施したことがポイントである。天文の事業実施にあたっての報道発表についても、2022年度は1件だったが、2023年度は13件実施することで、様々なメディアに科学館が掲載され、広報活動として十分に周知効果があった。

関わる人、組織が多くなることで、これまでにない視点や考え方が生まれる。また、事業内容に関連する様々な庁内の機関とも積極的に連携し、川崎市の様々な施策の推進に寄与することができた。さらに、連携先において、科学館全般についての関心が深まることも副次的に期待できる。

科学館の事業は市の事業であり、市民の理解なくして継続はできない。「地域の多様な主体との連携」を進めることが、地域・市民・行政の中での科学館の役割を再認識してもらうきっかけとなりうる。連携を通じて、まず科学館を知ってもらうこと、次に館の事業に様々な形で関わって、その次のステップとして、科学館を好きになり応援・サポートしていただける輪が広がればと思う。

なお、本稿で紹介した事業は川崎市教育委員会事務局の「e-笑顔サポート表彰」に「プラネタリウムを活用した、庁内外との連携等による新たな天文事業の企画・実施」として表彰された。

引用文献

川崎市青少年科学館 (編), 2023. 第2期川崎市青少年科学館運営基本計画. 48 pp., 川崎市.

インターネット情報

仙台市天文台, 震災特別番組
<https://www.sendai-astro.jp/311.html>
(accessed on 2024-Dec.-31)